

9 推進体制

(1) 「美し国おこし・三重」実行委員会

「美し国おこし・三重」の取組を、さまざまな主体で推進し、自立・持続可能で元気な地域づくりにつなげることを目的として、市町、地域づくり関係者、企業、有識者、県などの代表者などさまざまな主体で構成される「美し国おこし・三重」実行委員会を、平成20年2月に設立しました。

実行委員会では、「美し国おこし・三重」基本構想を確定し、基本構想を具体化する「美し国おこし・三重」基本計画を策定するとともに、年度ごとの実施計画を作成し、取組を進めました。

○開催数

- 実行委員会会議 17回
- 実行委員会幹事会 22回

(2) 「美し国おこし・三重」評価委員会

「美し国おこし・三重」実行委員会が行う取組について、第三者の視点から中立的な視点を加えた検証・評価を行うための「美し国おこし・三重」評価委員会を、平成22年6月に設置し、取組の検証・評価を行いました。

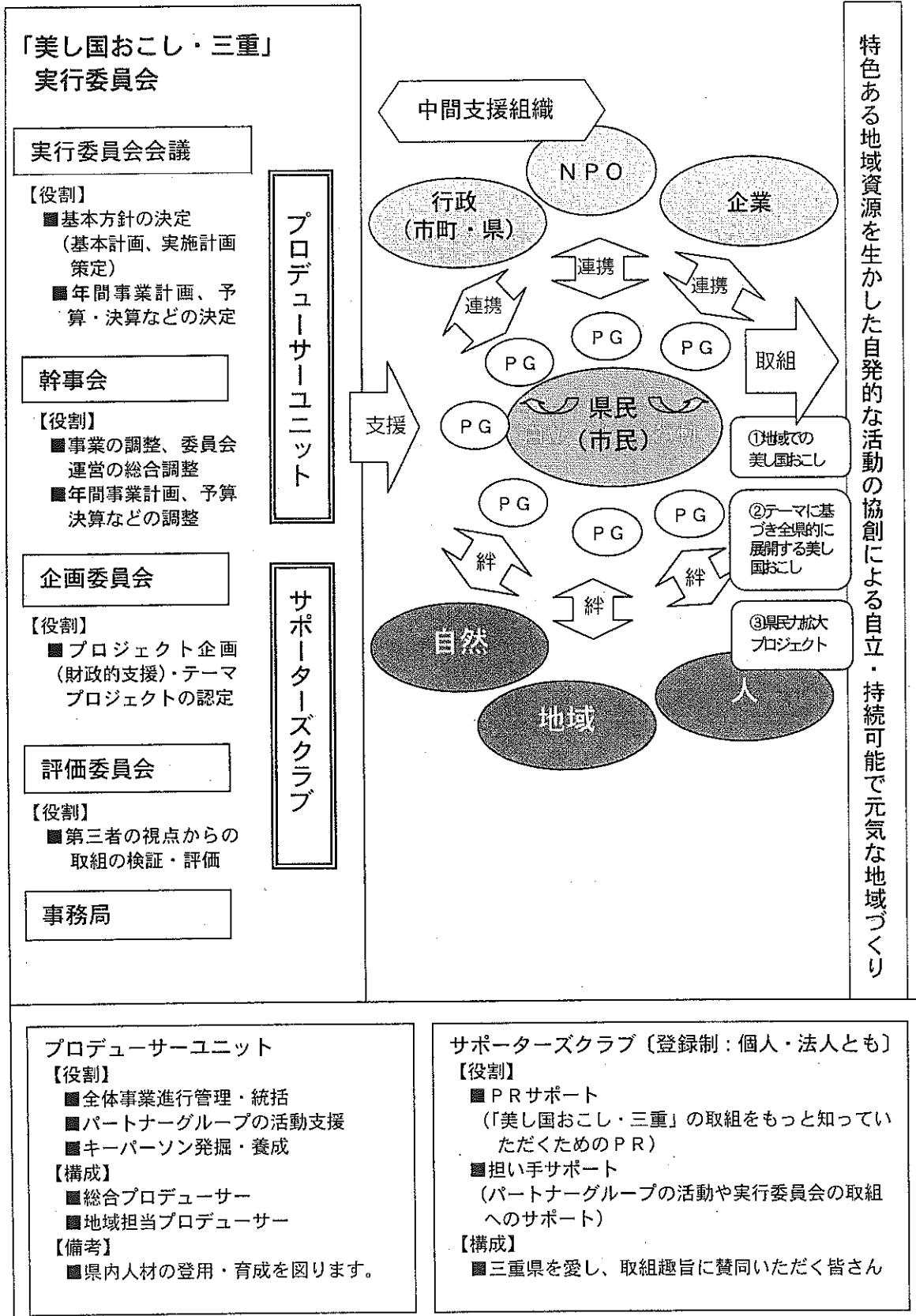
○開催数 15回

(3) 「美し国おこし・三重」推進本部員会議

「美し国おこし・三重」の取組を推進するにあたり、各部局等が連携・協力し、一体となって取り組むため、副知事を正副本部長に各部局長等を構成員とする「美し国おこし・三重」推進本部員会議を、平成19年11月に設置し、定期的に各部局との連携および取組の状況等について説明・協議を行いました。

○開催数 27回

(図 9-1) 推進体制図



「美し国おこし・三重」の目標と検証・評価

10 目標と検証・評価

「美し国おこし・三重」は、県内全域で6年間にわたる「新たなイベントスタイル」による取組であることから、その成果を検証・評価し、今後の自立・持続可能で元気な地域づくりに生かすことを念頭に取り組みました。

このため、実行委員会では、この取組のPlan(計画)－Do(実践)－See(評価)を展開していくため、自ら取組全体の仕組みや成果について、検証・評価を行いました。

(1) 目標の設定と結果

① 全体指標の目標と結果

本取組は、特色ある地域資源を生かした自発的な活動の協創による自立・持続可能で元気な地域づくりを目的としていることから、次の3つを全体指標として設定しました。

ア) 集客・交流者数

○県民力拡大プロジェクト参加者数

・「美し国おこし・三重」の6年間の取組成果を県内外にアピールし、地域をよりよくしていこうとする三重の県民力を新たな時代に向かって拡大する集客・交流イベントを開催し、集客・交流の効果を、自立・持続可能で元気な地域づくりへとつなげていく取組であることから、全体指標の一つとして設定しました。

□目標値(平成26年度)：延べ20万人

■実績値：1,247,113人

(336,798人)

*「縁博みえ2014」「三重県民大縁会」「第32回地域づくり団体全国研修交流会三重大会」の参加者数の合計

* ()内は、内数で、縁博パートナーシップイベントを除いた参加者数。

イ) ネットワーク構築数

○パートナーグループアンケートによる「パートナーグループが地域内外のさまざまなパートナーグループや団体との間に構築したネットワーク数」

・パートナーグループが、地域内外のさまざまなパートナーグループや団体と交流・連携を進めていくことは、自立・持続可能で元気な地域づくりを目的とする「美し国おこし・三重」を展開していくにあたっての絆づくりとして重要な要素であることから、全体指標の一つとして設定しました。

・個別の取組指標と目標として設定する1,000のパートナーグループが、地域や分野、業種を越えて、平均して3つの新たなネットワークを生み出すことを目標としました。

□目標値（平成 26 年度）：3,000 グループ

■実績値：4,372 グループ

ウ) 地域への愛着度

○三重県が実施する「e-モニター」による「地域への愛着度」

- ・特色ある地域資源を生かした自発的な活動の協創による自立・持続可能で元気な地域づくりを進める上で、地域の皆さんが、それぞれの地域に対して「愛着」や「誇り」を感じ、また、そうした気持ちが高まっているかが重要な要素となることから、全体指標の一つとして設定しました。

□目標値（平成 26 年度）：90 %

■実績値：81.6%

(表 10-1) 年度別 全体指標の実績値推移

【全体指標】

		H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6
県民力拡大プロジェクト 参加者数 *注)	目標	—	—	—	—	—	20万人
	実績	—	—	—	—	683,691人 (134,430人)	1,247,113人 (336,798人)
ネットワーク構築数 [単年度]	目標	300グループ	600グループ	600グループ	600グループ	600グループ	300グループ
	実績	109グループ	167グループ	112グループ	1,067グループ	1,094グループ	1,823グループ
" [累計]	目標	300グループ	600グループ	1,500グループ	2,100グループ	2,700グループ	3,000グループ
	実績	109グループ	276グループ	388グループ	1,455グループ	2,549グループ	4,372グループ
地域への愛着度 [一万人アンケート]	目標	—	71%以上	72%以上	—	—	—
	実績	69.4%	67.7%	73.1%	—	—	—
" [e-モニター]	目標	—	—	—	82%	83%	90%
	実績	—	—	79.3%	78.3%	82.8%	81.6%

は基本計画での目標値

*注) 平成25年度は、県民力拡大プロジェクトプレイベントに関する実績
 なお、() は内数で、プレ縁牌パートナーシップイベント (H25)、縁牌パートナーシップイベント (H26) を除いた参加者数

②個別の取組指標と目標の設定

取組の3つの柱ごとに、次の指標を設定しました。

ア) 自発的な地域づくりグループへの支援

○パートナーグループ数

…パートナーグループとして登録されたグループ数

- ・パートナーグループがこの取組の主役となることから、取組の柱の

一つの指標として設定しました。グループ数を単純に増やすことを目的とするのではなく、6年間で新規、既存も含めて、「美し国おこし・三重」の取組の趣旨に沿って、自立・持続可能で元気な地域づくりに向け、その仕組みづくりをともに考え、連携して取り組んでいただける1,000のパートナーグループが登録されることを目標としました。

□目標値（平成26年度末累計）：1,000グループ

■実績値：743グループ

○パートナーグループの活動充実・満足度

…この取組に参画するパートナーグループの自己評価による活動充実・満足度

- ・個々の取組を実際に行うパートナーグループの皆さんのおもいを積み上げるものとして、取組の柱の一つの指標として設定しました。自立・持続可能で元気な地域づくりのためには、個々の取組が継続して実施されていくことが重要であることから、7割以上のグループからこの取組に参画して良かった、成果が上がった、意義ある取組であると評価いただけることを目標としました。

□目標値（平成26年度）：70%以上

■実績値：82.4%

イ) 自立性・持続性を高める仕組みづくり

○自立・持続の仕組みの構築数

…パートナーグループや市民活動を支援する中間支援組織・機能など地域づくりの取組の自立性・持続性を高める仕組みの構築数

- ・地域づくりを進めるパートナーグループや団体が、自立した活動を継続し、活動の輪を広げていくためには、それらの活動を支援する中間支援組織・機能の果たす役割が大きいことから、取組の柱の一つの指標として設定しました。
- ・パートナーグループを中心に、新たに30件の支援組織の創設や機能の拡充が行われることを目標としました。

□目標値（平成26年度末累計）：30件

■実績値：34件

ウ) 新たなイベントスタイルによる県民力の結集と成果の情報発信

○集客・交流者数

…県民力拡大プロジェクト参加者数（再掲）

- ・「美し国おこし・三重」の6年間の取組成果を県内外にアピールし、地域をよりよくしていこうとする三重の県民力を新たな時代に向

かつて拡大する集客交流イベントを開催し、集客・交流の効果を、自立・持続可能で元気な地域づくりへとつなげていく取組であることから、取組の柱の一つの指標として設定しました。

□目標値（平成 26 年）：延べ 20 万人

■実績値：1,247,113 人
(336,798 人)

*「縁博みえ 2014」「三重県民大縁会」「第 32 回地域づくり団体全国研修交流会三重大会」の参加者数の合計

*（ ）内は、内数で、縁博パートナーシップイベントを除いた参加者数

○地域活動参加率

…三重県が実施する「e-モニター」による「地域の活動などに参加している住民の割合」

・地域づくりの活動に参加する住民の皆さんが増えることは、自立・持続可能で元気な地域づくりに向けて重要な要素となることから、取組の柱の一つの指標として設定しました。

□目標値（平成 26 年度）：38 %

■実績値：48.2%

③その他の個別の取組指標と目標の設定

○座談会等開催数

…座談会等：座談会、意見交換会・説明会、ご縁づくり交流会の開催数

・「美し国おこし・三重」実施計画における参加・交流者数などの個別の取組、目標として設定しました。

□目標値（平成 26 年度末累計）：2,020 回

■実績値：3,810 回

(表 10-2) 年度別 個別の取組指標の実績値推移

【個別の取組指標】

		H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6
パートナーグループ登録数 [単年度]	目標	100グループ	200グループ	200グループ	200グループ	200グループ	100グループ
	実績	153グループ	110グループ	79グループ	175グループ	170グループ	67グループ
" [累計]	目標	100グループ	300グループ	500グループ	700グループ	900グループ	1,000グループ
	実績	153グループ	263グループ	342グループ	513グループ (廃止4)	681グループ (廃止2)	743グループ (廃止11)
パートナーグループの活動充実・満足度	目標	70%以上	70%以上	70%以上	70%以上	70%以上	70%以上
	実績	84.1%	69.4%	74.9%	70.9%	81.2%	82.4%
自立・持続性のしくみの構築数(中間支援組織・機能) [単年度]	目標	3件	3件	3件	5件	5件	11件
	実績	1件	2件	7件	5件	11件	8件
" [累計]	目標	3件	6件	9件	14件	19件	30件
	実績	1件	3件	10件	15件	26件	34件
地域の活動などに参画している住民の割合 [一万人アンケート]	目標	19.4%	20.0%	21.0%	—	—	—
	実績	15.2%	13.2%	25.8%	—	—	—
" [e-モニター]	目標	—	—	—	34.6%	36.0%	38.0%
	実績	—	32.4%	33.6%	33.8%	46.4%	48.2%
座談会等開催数 [単年度]	目標	350回	350回	330回	330回	330回	330回
	実績	599回	607回	588回	715回	776回	回
" [累計]	目標	350回	700回	1,030回	1,360回	1,690回	2,020回
	実績	599回	1,206回	1,794回	2,509回	3,285回	回

は基本計画での目標値

(2) 取組の波及効果

① 「県民力拡大プロジェクト」等の経済波及効果の推計

パートナーグループを含めた「美し国おこし・三重」6年間の取組の成果を披露する場として実施した、平成 25 年度の「県民力拡大プロジェクトプレイベント」(以下「プレイベント」という。)および平成 26 年度の「県民力拡大プロジェクト」における、パートナーグループ主催イベントと「美し国おこし・三重」実行委員会主催イベントについて経済波及効果の推計を行いました。

ア) 経済波及効果の推計結果

a) 「プレイベント」の経済波及効果

平成 25 年度に実施した「プレイベント」では、134,430 人の参加者があり、それら参加者により、3.8 億円の経済波及効果がもたらされたと推計されます。

b) 「県民力拡大プロジェクト」の経済波及効果

平成26年度に実施した「県民力拡大プロジェクト」では、335,960人の参加者があり、それら参加者により、11.9億円の経済波及効果がもたらされたと推計されます。

c) 「プレイベント」を含めた「県民力拡大プロジェクト」の経済波及効果

上記の「プレイベント」と「県民力拡大プロジェクト」を合わせると、470,390人の参加者があり、それら参加者により、15.7億円の経済波及効果がもたらされたと推計されます。

イ) 推計方法

「県民力拡大プロジェクト」等による経済波及効果の推計にあたっては、「平成17年(2005年)三重県産業連関表による分析事例集」を参考に、県統計課が提供している産業連関分析シート(36部門)を利用しました。この分析ツールは、産業連関表を用いて、ある産業に需要が発生した場合、県内への経済波及効果がどのくらいになるかを簡易的に推計するものです。

実際の推計においては、「平成25年観光レクリエーション入込客数推計書・観光客実態調査報告書(三重県)」の観光客平均利用総額に基づく一人あたりの消費目的別(交通費、食費等)消費額に「県民力拡大プロジェクト」等の参加者数を乗じ、そうして得られた数値を基に、「平成17年全国産業連関表」から県内最終需要増加額等を算出しています。

また、その際、より実態に近い推計結果が得られるよう、「県民力拡大プロジェクト」等のイベントを、飲食や買い物を伴う祭りやマルシェ等の集客交流イベント、そうしたものを伴わない講演会や体験会等に区分し、さらに日帰りのイベント、宿泊を伴うイベントにも区分したうえで、推計を行っています。

なお、「第32回地域づくり団体全国研修交流会三重大会」については、参加申込者数を基に推計を行っています。

② パートナーグループの活動による地域への波及効果

「美し国おこし・三重」の取組にかかる成果の検証について

(平成26年10月8日 三重県議会総務地域連携常任委員会提出資料)

1 「美し国おこし・三重」の取組について

「美し国おこし・三重」は、住む人も訪れる人も幸福を実感できる元気な三重の実現をめざす取組です。地域のさまざまな主体が、地域の特色ある自然や歴史・文化などを活用して自発的に取り組む地域づくりを基本に、平成21年から平成26年までの6年間にわたって、地域づくりを行うグループ・団体のさまざまな活動に着目し、その活動を個別支援することで、『地域づくりの担い手の掘り起し・育成』につなげてきたところです。さらには、多彩な催しを展開することにより、地域の魅力や価値を向上させ、発信するとともに、集客交流の拡大を図り、自立・持続可能で元気な地域づくりへとつなげています。

これまで、それぞれの地域において、地域の課題や将来について語り合う「座談会」を開催することによって、地域づくりの担い手の掘り起こしを行うとともに、プロデューサーの助言や研修会の開催などによって、地域づくりの人材の育成に取り組んできました。

また、それぞれのパートナーグループに対しては、専門家の派遣や財政的支援、広報支援などを行うとともに、多彩な交流を生み出し、高い情報発信効果を持つさまざまな「イベント」を企画、または参画していただくことで、個々のパートナーグループの活動の基盤づくりにも取り組んできました。

今年度は、この6年間の締めくくりとして、地域内外や分野を問わず交流・連携の輪が広がるよう1,000以上の地域づくりイベントを県内各地で順次行う博覧会「縁博みえ2014」とパートナーグループが一堂に会し、県民の皆さんとの交流・連携を深める「三重県民大縁会」を開催します。

2 「美し国おこし・三重」の取組の成果と検証について

パートナーグループに733(平成26年9月末)のグループ・団体が登録し、これらの活動分野は、福祉、教育、環境、まちづくり等、さまざまな分野へと拡がりを見せ、さらには、複数のグループ・団体が自主的に連携した取組事例も増えるなど、パートナーグループによる地域を元気にしようとする自主的・主体的な地域づくりの機運も着実に向上してきています。

この6年間の取組によって、パートナーグループの活動実績やノウハウが蓄積されるとともに、パートナーグループ同士やパートナーグループと行政・企業等とのネットワークが構築されるなど、一定の成果は得られたものと考えています。

これらの成果をわかりやすく伝えるため、どのように「地域を元気にしてきたか」について、以下の7つの観点から代表的な事例も紹介しながら整理を行いました。

(1) さまざまな分野で新たな担い手づくりにより地域を元気にする

- ① ものづくり・新商品の開発により地域を元気にする
- ② 新たな賑わい・イベントにより地域を元気にする
- ③ 地域のコミュニティの再生により地域を元気にする
- ④ 中間支援組織・機能の拡充により地域を元気にする

(2) さまざまな主体との新たな連携により地域を元気にする

- ① 企業・団体との連携により地域を元気にする
- ② 大学との連携により地域を元気にする
- ③ 行政等との連携により地域を元気にする

(1) さまざまな分野で新たな担い手づくりにより地域を元気にする

① ものづくり・新商品の開発により地域を元気にする

パートナーグループによるものづくりや新商品開発の取組は、地域の伝統的産業、地場産業、歴史文化資源の活用・再生につながるとともに、地域の産業振興や地域ブランドの確立、地域の誇りの醸成に結びついています。

また、これらの取組は、高齢者の生きがいづくり、障がい者の自立支援といった面から身近な暮らしの充実にもつながっています。

○パートナーグループ「ごたーげさん」(木曾岬町)

地域の代表的な特産品トマトなどを使った新たなレシピ・加工品づくりを行うとともに、田畑を地域の集いの場と見立て、料理を通じた世代間交流により町おこしをめざすグループです。

平成 22 年度に厨房設備を購入[財政的支援]し、木曾岬町の代表的な特産品であるトマトの加工品「とまとだね」(トマトの調味料)などを商品開発し、地元の規格外トマトの有効活用に寄与しています。開発商品のラベルのデザインや当該商品の販路拡大について学んだこと[専門家派遣]を生かし、各種のイベントへの出展や多様な広報媒体で広く P R することで、木曾岬町の地域活性化、情報発信にもつながっています。



○パートナーグループ「亀山みそ焼きうどん本舗」(亀山市)

亀山市内の飲食店組合と連携して、みそ焼きうどんを亀山の B 級グルメとして確立し、食を通しての地域活性化をめざすグループです。

平成 22 年度に調理機材や着ぐるみ等を購入[財政的支援]し、P R 販売を更に拡大させ、「中日本・東海 B - 1 グランプリ in 豊川」(平成 23 年度)での 1 位獲得を契機に、平成 23 年度から「B - 1 グランプリ」へ連続して参加しています。

平成 25 年 7 月には、パートナーグループ「おでかけかめやま」等の協力も得て、亀山で開催した「全国焼きうどんサミット」や、B - 1 グランプリ出場に関する報道、サークル K サンクス、おやつカンパニー等での商品化による亀山の P R 効果は絶大であり、亀山の新たな食の観光資源として定着するとともに、観光誘客にもつながっています。また、ボランティアの活用により、世代を超えた地域のコミュニティづくりの役割も果たしています。



○パートナーグループ「参宮ブランド『擬革紙』の会」(玉城町)

江戸時代に伊勢地方で生産されていた擬革紙の復興をめざすグループです。

平成 22 年度に「絞り」の技術の習得[専門家派遣]、平成 23 年度に擬革紙の製作に必要な機材、道具の購入[財政的支援]などサポートメニューを活用し、その復元に成功。商品化に向けて年々そのレベルを上げており、平成 25 年 9 月には「擬革紙」が三重県の「指定伝統工芸品」に認定



されました。平成 26 年秋には、商品としての発売を予定しており、伝統工芸品(文化)としてのPRや技術の継承に取り組むなど、地域の新産業創出につながっています。

○パートナーグループ「麻生の浦会」(鳥羽市)

「朝市」の開催を通じて、地域住民が楽しみながら多様な活動に参加する総合的な地域づくりをめざすグループです。

平成 22 年度に味噌づくりに必要な調理器具の購入や施設整備[財政的支援]を行い、味噌の生産・販売の規模拡大とともに、商品パッケージの知識や技術のアドバイス[専門家派遣]を受け、新しいパッケージなどによるブランド化や、「朝市」のPR、味噌とさまざまな地元食材を使った加工品の開発・販売につながっています。



地域のコミュニケーション・交流の場となっている「朝市」の活動だけでなく、念願であった味噌作りを実現し、地域の高齢者の生きがいづくりにもつながっていることが評価され、平成 24 年度みえ地産地消大賞「奨励賞」を受賞。さらに、「美し国おこし・三重」のネットワークを通じて、積極的に他の朝市や産直市、女性グループ(パートナーグループ等)との交流を行うことで、グループの意識向上や取組の充実・継続につながっており、今後もこれらの活動を継続し、地域でさらなる雇用を生み出すことをめざしています。

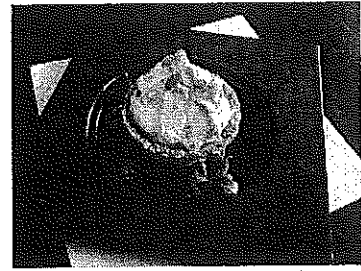
○パートナーグループ「NPO法人 天満浦百人会」(尾鷲市)

「天満浦から尾鷲をにぎやかにする」ことを目的に、ランチバイキング、食の伝承、体験、地域の産品を利用した特産品づくりなど、古民家(天満荘)を拠点とした地域おこしをめざすグループです。

平成 24 年度には、天満浦の甘夏を使ったスイーツのレシピ開発や製作のためのアドバイス[専門家派遣]を受けて 2 種類のオリジナルスイーツを完成させました。平成 24 年 7 月からカフェ天満荘で提供したところ好評を博し、「天満荘」のイメージアップにつながっています。



また平成 25 年度には、まち歩きマップを大学生と共同で制作し市内外に配布するとともに、ウォーキングなどの地域おこしイベントを開催することで、さらに活動の幅を広げており、県内外から「天満荘」を目的に訪れるファンやリピーターが増えるなど、尾鷲市及び天満浦地区の観光振興・集客交流につながっています。



○パートナーグループ「手づくり工房・ワイワイ」(紀北町)

古布、古紙を再利用した生活用品を製作することで、中高年の人たちがものづくりを通じて長く社会との関わりを持ち続けることをめざし活動しているグループです。



平成 21 年度に地元の祭りにちなんだ新製品「カツオの抱き枕」を製作[財政的支援]し、町内外のイベントで販売するなど、「魚のまち 紀北町」のPRにつなげています。

また、東日本大震災を契機に、津波などからの緊急避難や自立歩行困難者の日常介護に使える防災用搬送具「かけモック」を発案。企業との意見交換、県工業研究所での強度試験、特許取得にかかるアドバイスなど関係団体等への橋渡しにより、平成 24 年 9 月から販売を開始しました。



防災用搬送具「かけモック」を用いて、イベントでの防災啓発活動や防災講演も積極的に実施し、紀北町では、自主防災組織がまとめて導入するなど、地域の防災意識の向上にもつながっています。

○パートナーグループ「花蜜柑」(紀北町)

紀北町古里地区の魅力を発信し、地域活性化をめざしているグループです。

平成 24 年度に調理設備を整備[財政的支援]したことで、廃棄されている橙を活用した「橙ポン酢」の安定した生産が可能となりました。海水浴場、温泉、熊野古道等、多くの人々が訪れる古里地区の古里温泉市場を中心に、地域でのイベント等にも積極的に出店するなど販路を拡大しており、地域資源の活用による地域の魅力発信を広く行っています。



② 新たな賑わい・イベントにより地域を元気にする

パートナーグループによる自然体験教室、地域の歴史・文化の紹介、ウォーキングなど、学習・体験機会を提供するさまざまなイベントが県内各地で数多く実施され、地域資源の掘り起こしや活用などによる新たな賑わいづくりにつながっています。

また、フェスティバル(若者の交流の場、音楽等の披露の場)やマーケット(農林水産物の市、手づくり・クラフトマーケット)等の新たな賑わい・イベントが創出されることで、経済的効果に加え、人と人との交流促進などの波及効果も地域に生まれています。

○パートナーグループ「39の輪」(四日市市)

地域課題解決に向け、地域で頑張っている人と人とのつながりを深め、地域の輪をつなげる活動に取り組むグループです。

「プレ縁博みえ」企画提案モデル事業をきっかけに、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを啓発するピンクリボンキャンペーンの一環として四日市港ポートビルをピンク色にライトアップするイベントを、複数のパートナーグループや企業等の協力を得て、平成25年度から開催しています。



また、平成25年度の「「プレ縁博みえ」民間企業とのタイアップ事業」の一つとして、保険代理業者の(株)ファーラウトと連携し、「がんの早期発見・早期治療」をめざした「みえ・がん検診受診率向上プロジェクト」を実施しました。がん検診受診啓発用のPRポスター・チラシの製作や広く一般からデザイン公募した「特製クオカード」の活用により、県民のがん検診受診率向上につながっています。

○パートナーグループ「みえクチコミネットワーク」(川越町)

県内のお祭り、名産品、団体活動、三重らしさといった情報を多く収集・蓄積し、より多くの人々に伝えるためにクチコミやインターネットを利用した新たなつながりにより地域を元気にするグループです。

専用テントの購入等[財政的支援]を契機に、近鉄川越富洲原駅前で地元の店舗や農家等が参加する「川越マルシェ」を平成25年度から開催しています。継続して開催することにより、川越町の知名度の向上とともに、参加事業者や地域の活性化につながっています。



駅前に新たな賑わいが生まれるとともに、都市通勤者、若者家族などの新住民同士や地元生産者などとの絆づくりに大きな効果を果たしました。また、「川越マルシェ」だけでなく北勢地域のさまざまな場所でマルシェを開催することで、地元の小規模事業者のやる気を喚起するなど各所に新た

な市場を作り出すビジネスモデルを生み出し、地域の活性化につながっています。

○パートナーグループ「ヤマトタケルまちづくり隊」(亀山市)

「亀山市北東部まちづくり推進協議会」を母体とし、亀山市北東部(井田川南地区、同北地区、川崎地区)のさまざまな課題解決に向けた活動を行うグループです。

平成 24 年度に「歴史×文化×物語拡大座談会」を「美し国おこし・三重」実行委員会と共催し、「ヤマトタケルの魅力を活かしたまちづくり」をテーマとするイベント開催に向けた機運の醸成を図り、平成 25 年度には「プレ線博みえ」企画提案モデル事業の一つとして、「ヤマトタケル群行ウォーキング祭り」を初めて開催しました。参加者も約 250 名にも及び、地域の歴史文化を見直すきっかけづくりや、地域住民等との交流促進にもつながりました。



このイベントが成功したことを受け、平成 26 年度には「かめやま文化年 2014」事業に位置づけられ、市の支援を受けて観光資源を活用した集客・交流イベントとして継続されることとなり、地域の活性化につながっています。

○パートナーグループ「特定非営利活動法人 三重ドリームクラブ」(津市)

着ぐるみの「とらまる」を活用して、さまざまなイベントへ参加し藤堂高虎公をアピールしているほか、手作り甲冑教室を開催して、地域の活性化に取り組むグループです。

平成 21 年度に、「美し国おこし・三重」キックオフプロジェクトの一つとして「手作り甲冑教室」への参加者募集やグループ活動の PR を支援しました。

平成 22 年度に、武者行列のグレードアップに必要なのぼりや太鼓等を購入[財政的支援]し、市内外だけでなく県外のイベント出演の機会を拡大するとともに、平成 24 年度には、テーマプロジェクト「物語おこしプロジェクト」の一つとして「安濃津戦国武将隊」を新たに結成しました。武士の立ち居振る舞



い、セリフ、殺陣のパフォーマンスをマスターし、エンターテインメント性をより高めたイベントを県内外で披露することで、楽しみながら津の歴史文化に触れる機会を提供し、津市をはじめ三重県の観光振興につながっています。

○パートナーグループ「NPO法人 CORORO」(津市)

障がい者や高齢者等を対象に「音楽・アート・スポーツ・食」をテーマにしたアクティビティ活動を行うグループです。

さまざまな分野のパートナーグループとの連携により、福祉系のバリアフリーイベント“Fata festival”（ファタ フェスティバル）を平成 23 年度から継続して開催しています。平成 25 年 3 月には NPO 法人化を行うとともにオリジナルホームページも開設[専門家派遣]し、情報発信の強化を図りました。



平成 26 年度は 12 のパートナーグループの参加・協力によりさまざまな分野のブース出展も増え、来訪者 1,000 人以上の集客・交流イベントに成長しており、心のバリアも体のバリアも関係なく「だれもが心豊かで幸せに」に参加でき、楽しめる場を提供することで、障がい者福祉等の向上につなげています。

○パートナーグループ「まさかのまつさか」(松阪市)

御城番屋敷を活用した交流、おもてなしなど、松阪の良さを知っていたくミニツアー等により、松阪の「いいとこ」を広く発信しているグループです。

「美し国おこし・三重」拡大座談会（女子会）～地元の魅力を発見し、発信しよう！～や、松阪市商店街のまち歩きなどに講師として参画したことをきっかけとして、活動発表や作品展示の場を求めるパートナーグループ等とのネットワークが拡大し、御城番屋敷を活用したパートナーグループによるイベントや活動発表・展示が増えています。

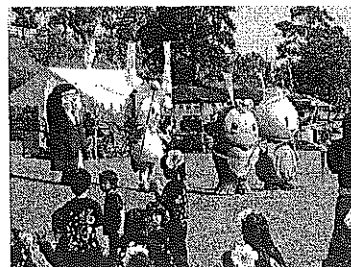


平成 25 年度には、イベントの広報・PR、アピール力あるチラシ作成のノウハウを学び、広報力をアップ[専門家派遣]し、地域の魅力を知ってもらう「松阪もめんでまち歩き」を開催するとともに、「松阪スタディツアー」の商品化をめざすなど、松阪の歴史文化の情報発信や観光振興に寄与しています。

○パートナーグループ「M's Total Produce」(伊勢市)

観光客のみならず、地域で暮らす人々がまず楽しみ、元気になるような音楽イベント、フリーマーケット、商店街の活性化支援など、さまざまなイベントや事業の実施により、文化振興や地域活性化をめざしているグループです。

平成 24 年度のパートナーグループ登録以降、さまざまなイベント（チャリティコンサート、フリーマーケット、飲食イベント等）



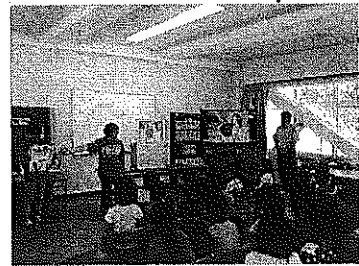
を開催し、地域の集客・交流の促進につなげています。平成 25 年度には「プレ縁博みえ」企画提案モデル事業の一つとして、ダンス・バンド・ものづくり&クラフト・飲食・物販・ご当地キャラクター等さまざまなジャンルの取組が一堂に会する新たなイベント「度会縁遊祭」を開催しました。

多くのパートナーグループや団体、開催地の度会町の協力も得て、来場者も 2,500 名を超える大成功となったことから、度会町の新たな集客・交流イベントとして継続開催していくこととなり、地域の観光振興や地域活性化につながっています。

○パートナーグループ「I SOMON⁶」「戸畔の会」「アンチョビ・サーデン錦」(大紀町)

「I SOMON⁶」は、トロピカルガーデン・錦向井ヶ浜遊パークで、海開きイベント等の開催のほか、地元で失われつつある錦地区の祭りや文化の伝承等について、他の2つのグループと連携して取組を進めています。

平成 23 年度にテーマプロジェクト「物語おこし」プロジェクトの一つとして、地域に伝わる歴史等を掘り起こす「丹敷戸畔の謎」解明プロジェクトを実施しました。地域の高齢者への聞き取りや地域住民を交えてのミーティング、講演会、まち歩き等により、地域の物語を掘り起こすとともに、「紙芝居」という形で地域の小学生に伝えることで、子ども達の地域に対する関心呼び起こし、地元愛や地域の誇りの醸成につながっています。

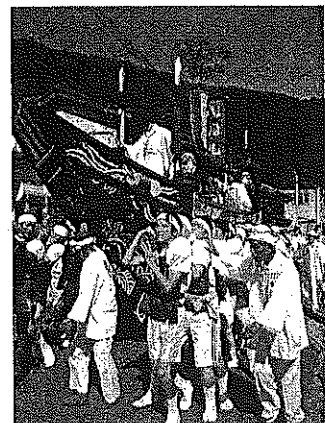


平成 25 年度には「プレ縁博みえ」企画提案モデル事業の一つとして、大紀町錦から奈良の都に続く「魚の道」「神武東征の道」を掘り起こす新たなウォークイベント等にも着手しました。今後、日本書紀編纂 1300 年にあたる平成 32 年まで続けて行くこととしており、地域の誇りや愛着を育み、住む人も訪れる人も楽しめる地域づくりにつながっています。

○パートナーグループ「関船衆」(紀北町)

紀北町海山区引本浦の祭り(関船祭)を切り口に、祭りの歴史や由来、引本の歴史を見直すとともに、祭りの担い手(関船の担ぎ手、観客)を増やし、「賑わいの復活」と“地域の絆の結束”を図っているグループです。

平成 24 年度に、「引本ひもときマップ」を製作[専門家派遣]するとともに、テーマプロジェクト「物語おこし」プロジェクトの一つとして、「引本ひもときマップ」を活用したまち歩きを、パートナーグループ「きほく俳句 de hike」と連携して実施することで、地域の皆さんが地域の歴史を学ぶとともに、地域のことを聞き取り、地域の良さを再確認する機会につなげました。



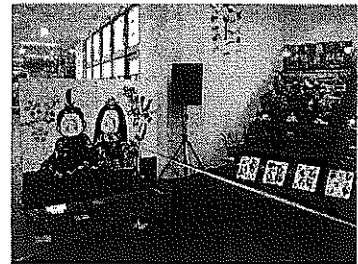
さらに、平成 25 年度には、引本神社で行う関船祭で担ぐ大きな船神輿をモデルに、子どもや女性でも担げるようにした「リトル関船」を地元のパー

トナーグループ「グリーンクラブ引本」とも連携して製作 [財政的支援] しました。女性・子ども・観光客等が関船を担ぐことで、引本地区の魅力
を再発見する機会にするとともに、地域の人の地元に対する自信や誇りの
醸成にもつなげるなど、祭りの継続や地域の活性化に寄与しています。

○パートナーグループ「熊野街道ひなめぐり実行委員会」(熊野市)

熊野の街中に雛人形をかざるイベントの開催を通じて、街中に賑わいを取
り戻すとともに、住民と観光客の交流や子どもたちの参画を進めること
で、集客や地域活性化につなげているグループです。

平成 24 年度に、「熊野街道ひなめぐり」
のぼり旗や顔だしパネルを製作 [財政的支
援] し、各参加店舗やイベント会場等に設置
したことで、イベントの周知や新たな会場案
内につながるとともに、これまで個々に存在
していた観光地、商店、景観などがまとまる
など、街全体として一体感の醸成につながり
ました。



また、普段見過ごしてしまう場所にも目を向けてもらうことで、地域の
魅力の再発見や新たな観光資源の創出など、地域の活性化につながって
います。

③ 地域のコミュニティの再生により地域を元気にする

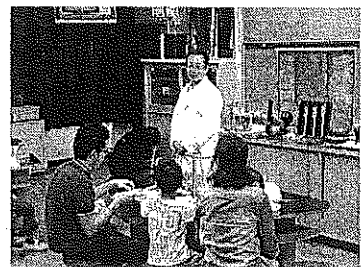
パートナーグループが、教育、女性の社会進出、高齢者福祉、障がい者福
祉、子育て、過疎対策、中山間地域の活性化などさまざまな地域課題・社会
的課題の解決に向けた取組を行うことで、行政サービスを補完し、地域のコ
ミュニティの再生や地域の暮らしを豊かにすることにつながっています。

○パートナーグループ「特定非営利活動法人 子どもアイデア楽工^{みっころ}」

(桑名市)

小学校の廃校を借り受け、子どもたちの創意工夫力など「生きる力」を
最大限引き出し、健全な子どもの育成と実社会で役立つ能力を高める活動
を通じて、地域社会への貢献をめざすグループです。

地域住民やパートナーグループ等の協力
も得ながら、手づくり体験や科学実験体験、
伝統芸能体験など子どもたちに能動体験の
各種プログラムを提供するイベントを開催
し、地域の子どもの子育て・子育ての
教育環境の充実につなげています。



また、周辺の豊かな自然 (山林、田畑)
を地域住民とともに活用するカリキュラムを実施することで、地域に活気
を取り戻すなど地域の活性化にもつなげています。

○パートナーグループ「NPO福祉ネット どんぐり」(桑名市)

音楽活動や元気体操等の知識や経験を生かし、主に高齢者を対象とした肉体的、精神的なケアを行う活動を桑名を中心とした北勢地域で展開するとともに、北勢線を利用した「歌声サロン電車」を実施するなど、地域住民の健康増進と地域間交流にも貢献しているグループです。

平成23年度に「歌声喫茶」などの活動のPRビデオを作成[専門家派遣]したことをきっかけとして、東員町のパートナーグループ「特定非営利活動法人 地域お助けネット」の年次交流事業の一つとして企画・実施した「歌声サロン」は、人気事業となり現在も継続して行われています。



また、「美し国おこし・三重」との共催により「くわな特別支援学校」で開催した拡大座談会「親と子のほのぼのブレイク」では、障がい者と健常者との交流を促進するとともに、地域のお年寄りが楽しみながら参加できる音楽を使った認知症予防のための活動は、近隣市町の社会福祉協議会などにも広がっており、これらユニークな活動は分野を越えて地域のローカル鉄道の活性化や観光資源の掘り起こしにもつながっています。

○パートナーグループ「大瀬古町子供と地域の環を育む会」(四日市市)

子どもたちが地域との関係を深め、高齢者とともに地域でさまざまな“環”を育むとともに、『日永で花と夢を育もう!』をスローガンとし、内部・八王子線の利用促進、日永朝市の活性化、あいさつ運動など地域を“環”にしたまちづくりに取り組むグループです。

「美し国おこし・三重」パートナーグループのさまざまな活動を知ったことをきっかけとして、新たに活動を開始したグループで、地元自治会とも連携し、旧東海道沿いの神社、仏閣、公園、鉄道等といった地域資源を活用したさまざまな野外活動を子どもたちに提供しています。



また、子どもたちを巻き込んだ地元のつんつくおどり保存に向けた取組や、近隣の近鉄内部・八王子線存続の取組など、市民団体や企業とのネットワークを活用したさまざまな取組により地域のコミュニティの再生につながっています。

○パートナーグループ「特定非営利活動法人 マザーズライフサポーター」(鈴鹿市)

乳幼児を抱える母親に向けた子育て情報の発信や、母親が子どもを預けてホッと一息つけるネットワークづくりなどの活動を行政や企業等と連携して展開しているグループです。

地域に密着した子育て情報誌「nicomama」を発行するとともに、平成25年10月には、鈴鹿市の協力により鈴鹿市稲生地区の空き家を借り受けるとともに、三重大学工学部建築学科の協力によって改修を行い、母親た

ちのネットワークづくりの交流拠点「ニコママ・カフェ」を開設しました。現在、AGF鈴鹿(株)等の協力も得ながら、毎週金曜日にカフェを運営しています。

また、平成26年5月には、パートナーグループ「ささらくらぶ」との連携により、未就園児を持つ母親が、仕事（茶摘み作業）と子守り（託児）を分担・調整しながら行う「コラボワーク」も実施し、子育て中の母親の就労支援の新たな取組として注目されています。

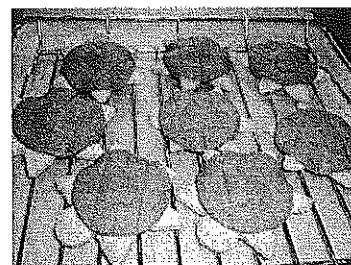
これら子育て中の母親の就労支援や母親の孤立防止、母親同士の交流による相互支援などは、NPO独自の画期的な活動モデルであり、稲生地区の地域活性化はもとより、他地域にも波及効果が期待できる取組となっています。



○パートナーグループ「ぼっかぼかの会」（亀山市）

障がいを持つ子どもたちの保護者らによる、子どもたちが自立して生活できるように「喫茶店兼作業所＋農園」の開所をめざすグループです。

平成23年度の冷凍冷蔵庫や電子式シーラー等の購入[財政的支援]を契機に、地元亀山茶を使用した「かめっこクッキー」等の生産性を向上させ、販売量を拡大するとともに、平成24年度には地元の農家と連携し、栽培、収穫したサツマイモを使ったパウンドケーキ「ずっしり紅あずま」を開発や梅干し作りを始めるなど、障がい者の就労機会の創出・拡大につなげています。



平成26年5月には、亀山市が一般公募を行った総合保健福祉センター内喫茶室の運営団体に選定され、「ぼっかカフェ」としてグループの目的であった喫茶店の営業を開始し、障がい者の就労拡大につなげるとともに、障がい者雇用に対する理解や機運の醸成に貢献しています。

○パートナーグループ「飯Ne!!」（松阪市）

親子で楽しめるイベントの企画や、地域の人たちの特技を活かす場づくりを進めることで、地域の若者（子育て世代）たちのつながりを深め、幅広い年齢層の人たちとの交流を図っているグループです。

地域で幅広い交流を行っていくため、コーチングの勉強会[専門家派遣]を行ったことにより、メンバーのコミュニケーションスキルが高まり、活動の活性化につながっています。

平成25年には、桑名の親子グループを松阪市飯高町波瀬地区へ招いて、波瀬地区の住民と交流する合同キャンプを実施するなど地域とのつながりを深めるとともに、宮前地区まちづくり協議会事業「歴史街道宮前宿活性化事業」の中での鹿肉を使ったジビエ料理の新メニューの開発などを通じて、地域の活性化につながっています。



○パートナーグループ「どんぐりの会」(伊勢市)

子どもたちが、スポーツや職業体験などを通して、困難を乗り越える力、地域の文化を感じ取り、新たなエネルギーにしていくなどを育むことを支援することによって、人材育成を通じた地域活性化に貢献しているグループです。

平成22年度のテーマプロジェクト「チャレンジキャンププロジェクト」において、尾鷲市・紀北町・多気町と複数のパートナーグループや地元住民グループと連携し、地域の課題解決と参加者の精神力・人間力の向上を目的に、社会貢献型サバイバル合宿



「チャレンジキャンプ」を実施し、関西大学体育会サッカー部の約150人の学生の皆さんが荒れた田の復元や山林の下草狩り、竹林整備等の地域課題の解決に2泊3日で取り組みました。なお、その年に同サッカー部は43年ぶりに大学日本一に輝いています。

平成23年度には志摩市間崎島等で、平成24年度には同市安乗地区等で、平成25年度には同市神明地区等で同様に、関西大学等が中心となった「チャレンジキャンプ」を継続して実施しており、これらは、耕作放棄地の開墾などさまざまな地域課題解決につながる一方、地域の住民の意識変化にもつながり、地域コミュニティの再生の新たなモデルともなっています。



○パートナーグループ「本と人の交流の館—陽だまり文庫」(伊賀市)

地域文庫を地域のサロン的な場として運営していく中で、地域の子どものことを地域の大人たちが考えていく場づくりや、子育てに関する団体等のネットワークづくりなどの活動をしているグループです。

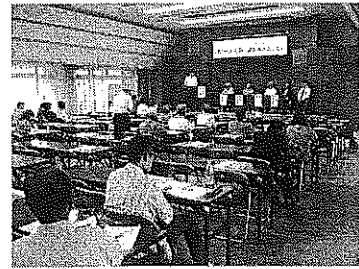
平成23年度から2年間行ってきた「歴史教室」での歴史散策と地域の語り部による初瀬街道の歴史物語をまとめた冊子「初瀬街道を歩いてみよう てくてくマップ」を作成[専門家派遣]し、地域の歴史に目を向けてもらおうと、旧青山町の小・中学校の全校生徒や各地域団体に配布を行うとともに、希望者には有料配布し、好評を得ています。



また、地元の青山観光協会とも連携し、青山観光協会が行う地域の語り部育成事業の資料としても活用されており、マップの作成をきっかけに、旧青山地域以外での知名度も増し、他地域の団体との交流も増え、古民家を活用した拠点や、地域住民の交流・憩いの場や地域情報の集積地となるなど、地域コミュニティの再生につながっています。

○パートナーグループ「いが移動送迎連絡会」(伊賀市)

高齢者や障がいのある方をはじめとする移動制約者への日常生活の移動支援を行うために、福祉有償輸送団体などのネットワーク化や地域公共交通に関する調査研究等を行い、安定した送迎手段の確立をめざしているグループです。



いが移動送迎連絡会は専門性を持った中間支援組織であり、「美し国おこし・三重」の拡大座談会やご縁づくり交流会を共催する中で、移動送迎に係る先進的な取組を伊賀地域の福祉関係団体や地域団体等に紹介するなどにより、関係団体や地域との連携を進めています。

過疎化・高齢化等が進む伊賀地域では最優先の地域課題である「移動送迎」は、行政だけで対応できるものではなく、行政のサービスと住民のニーズの間を埋めるために必要不可欠な活動として地域へ浸透しつつあります。

○パートナーグループ「種生区活性化計画推進委員会」(伊賀市)

交流施設「青山・ハーモニーフォレスト」を多くの都市住民に利用してもらえる集客施設に育てるとともに、地元「種生」の良さを広く外部に発信しているグループです。

「青山・ハーモニーフォレスト」の有効な活用だけでなく、地域の課題全般を考えていくために、「美し国おこし・三重」実行委員会や種生地区周辺のパートナーグループ「特定非営利活動法人 博要の丘」「宙の学舎」「風と光の森づくり」「トランジション伊賀」「ソライエプロジェクト」他と連携して開催した拡大座談会の中で、さまざまな話し合いを行い、種生地区のコミュニティの再生に向けて取り組んでいます。



○パートナーグループ「古道魚まち歩観会」(紀北町)

昔ながらの漁村の風景を残す魚まちのまちなみを保全し、そこに伝わる漁業・文化・民話などを後世に伝えていくとともに、熊野古道を歩く観光客を魚まちに誘導して魚まちのすばらしさを伝え、地域活性化を図っているグループです。

平成25年度に、地域住民の協力の下で古民家を整備[財政的支援]し、熊野古道ウォークや漁師まち「魚まち」歩きの際に立ち寄って休憩できる拠点「魚まちのたまり場」が完成しました。その後、まち歩きの際の休憩所として活用するほか、漁師町の漁師道具の展示や町内のイベント等での活用、さらに、日常でも地域住民が立ち寄って休憩するなど、地域のコミュニティスペースとしても活用され、地域内外の人に地域の歴史を伝える場所として観光振興にもつながっています。



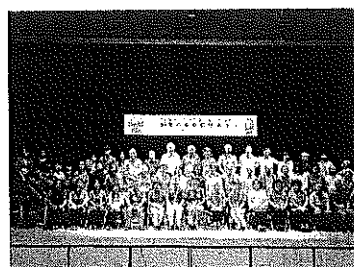
④ 中間支援組織・機能の拡充により地域を元気にする

パートナーグループが、特定の「テーマ」や「地域」においてさまざまな社会的課題を解決するため、個々に活動するグループ・団体、企業、行政などをネットワーク化し、情報提供や情報発信などのさまざまな支援を行うことで、地域をよりよくしようとするグループ・団体が互いの活動を支え合う自立・持続可能な地域づくり活動につながっています。

○パートナーグループ「傾聴同好会」(四日市市)

中・高齢者が心を込めて話を聴くことで、同世代の心をケアし、悩みや寂しさなどを軽減する傾聴により、地域の住民が地域の住民を支える社会づくりを進めているグループです。

ボランティアの確保と遠隔傾聴についての勉強会[専門家派遣]を踏まえて地域の傾聴活動の拡大に努めるとともに、平成 25 年度に、「美し国おこし・三重」拡大座談会～傾聴の輪を広げよう～を「美し国おこし・三重」実行委員会と共催で開催し、傾聴団体の県内ネットワーク組織である「みえ傾聴ボランティア連合会」の基盤づくりを行うなど傾聴団体をつなぐ中間支援機能を担っています。

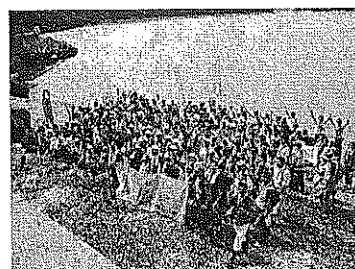


また、四日市地域をはじめとして県内全域での傾聴活動の高まりは、高齢化社会を迎え、民生委員等とともに独居老人等の見守り機能等、地域における高齢者等の精神的な支えという側面を有するようになってきており、このグループの取組は県や市を補完する取組として、傾聴活動を活用した独居老人の見守り、自殺の未然防止活動、さらに、会員間の相互扶助機能を含め、コミュニティの再生にもつながっています。

○パートナーグループ「四日市ウミガメ保存会」(四日市市)

四日市のイメージを「公害の街」から「ウミガメの街」に変えていくため、コンビナートの近くにも綺麗な海岸があることや、そこへアカウミガメが産卵に来ていることを広くアピールし、子どもから高齢者まで幅広く参加する海岸清掃や勉強会、産卵調査等を実施することにより、環境保護や環境教育を進めているグループです。

平成 22 年に、「四日市ウミガメ保存会」が中心となり県内の海岸清掃を行うパートナーグループ等と連携した伊勢湾岸全体の海岸清掃のテーマプロジェクト(ソーシャルレジャー)を実施しました。平成 24 年度には、「22 世紀奈佐の浜プロジェクト委員会」を東海 3 県の環境団体及び地元住民等とともに設立し、毎年数千トンのゴミが漂着する答志島の「奈佐の浜」において、海岸清掃及びシンポジウムを実施し、平成 25 年以降も、「22 世紀奈佐

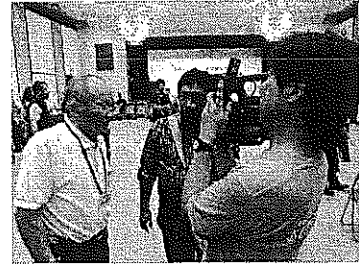


の浜プロジェクト」として県域を超えてさまざまな団体、企業、行政をつなぐ活動を継続し、社会的課題解決に取り組んでいます。

○パートナーグループ「おでかけかめやま」(亀山市)

旧東海道亀山宿の街道沿い(野村地区)の休憩所「コミュニティ・スペース おでかけかめやま」のオープンをきっかけに、地域の交流の場づくりやまちの賑わいづくりに取り組んでいるグループです。

平成 25 年度に、インターネットテレビの制作・放送に関する技術の向上の勉強会[専門家派遣]などを行い、インターネットを活用した情報発信や若者向けのイベントを開催することで、地域のさまざまなグループがお互い知り合い、連携できるようなきっかけを作るといった中間支援機能を担っており、それによって、地域住民の交流促進や地域住民による観光活性化の機運の醸成にもつなげています。



また、若者を中心にイベントの企画運営がなされることで、若者が地域に溶け込み、世代を超えた交流・連携による地域の担い手づくりにつなげるとともに、市民協働センターの活動との連携や「かめやま文化年 2014」への参画など官民一体となったコミュニティづくりにもつながっています。

○パートナーグループ「sakura café プロジェクト」(鈴鹿市)

鈴鹿市鈴峰地区でコミュニティ・カフェを運営し、地域住民の憩いの場を提供するとともに、店内や隣接する寺社を会場にしたアート&音楽イベントを開催するなどにより、地域活性化をめざすグループです。

平成 24 年 12 月に「美し国おこし・三重」の「食と農でつながる拡大座談会」、平成 25 年 11 月に「拡大座談会 コミュニティ・カフェをつくろう」などの開催をきっかけとして、イベントや教室、展示会など地域内外の住民との交流イベントを積極的に開催するなど、さまざまなグループが集まる地域の交流拠点として中間支援機能を担う活動を展開しています。



○パートナーグループ「NPO法人 a trio」(津市)

津の文化や歴史を中心に特色ある地域資源を活用して、夢をもって仕事に取り組む人材を育成することにより、地域の経済活性化をめざすグループです。

地域の人材育成のためのキャリア教育や研修、各種採用・雇用コンサルティングなどの事業を展開しており、平成 24 年度に、ホームページの更新や運用、チラシの作成といった情報発信面の強化[専門家派遣]を図り、ウェブの効果的な利活用、フェイスブックとの連動による情報発信につなげています。

平成 25 年度から県教育委員会、県内大学、企業、県子ども・家庭局、雇用経済部と連携し、公募広域型インターンシップ事業「三重チャレ」を新たに企画・運営するなど、教育 CSR として地域の企業と学校をつなぐプロジェクトを展開し、異業種ネットワークを広げており、平成 25 年 3 月に津地域拡大座談会『想いを形にするために 自立していくための事業モデル』を、平成 26 年 4 月に津地域ご縁づくり交流会「企業との縁をつくるには！“縁活”しよう～自立・持続につなげていくために～」を共催するなど、パートナーグループ、NPO などの活動が継続していくための異業種交流、マッチングの場づくりのサポートといった中間支援としてのコーディネイト機能も担っています。



(2) さまざまな主体との新たな連携により地域を元気にする

① 企業・団体との連携により地域を元気にする

CSR(企業の社会的責任)活動や地域との連携を重要視する企業が増えてきていることから、地域づくりへ企業の持つ能力や経済力を生かしたいパートナーグループが連携することで、パートナーグループの活動の事業性を高めるとともに、地場産業の活性化等にもつながりました。

○パートナーグループ「NPO 法人 桑竹会」(桑名市)

桑名地域の地域課題となっている竹林整備、里山保全活動を実践しているグループです。

平成 22 年度から「美し国おこし・三重」のテーマプロジェクト「ソーシャルレジャー」を契機として、近隣の桑名西高校との連携や、財団等からの助成、中日本高速道路(株)(NEXCO 中日本)からの投光器の貸与や(株)デンソー、東洋ゴム工業(株)、ヤマモリ(株)等の企業からの伐採作業、竹灯籠づくりへの社員の派遣、地域ボランティアの人的応援などにより、バンブーエイド「桑西・竹の十三夜」を継続開催し、協働による環境保全活動の促進につなげています。



さらに、間伐した竹を原料とした竹炭、竹製パレット、バイオチップなど竹の有効活用を目的とした研究開発を行うなどにより、資源循環型社会の構築にもつなげています。

○パートナーグループ「三重ママサロナーゼclub」(四日市市)

女性向けの教室やイベントを開催・運営することで、女性が社会で活躍できるスキルを身に付け、魅力を発揮できる場をつくり、社会進出や起業の支援につなげているグループです。

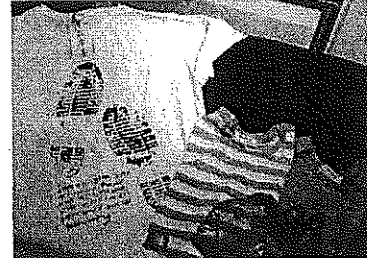


平成 25 年度の「「プレ縁博みえ」民間企業とのタイアップ事業」の一つとして、住民グループなどが開催する体験教室やイベントを活用したいと考えているイオン(株)津店等の企業と連携し、女性向けフリーペーパーを作成・配布するイベント「ママの想いをカタチに ミエ・ママ・メッセージ」を県内各地で展開するなどにより、女性が社会で活躍できるスキルを身に付ける機会の提供を行うことで、女性の社会進出や起業の支援につなげています。

○パートナーグループ「鈴鹿の街☆墨の街」(鈴鹿市)

伝統的工芸品「鈴鹿墨」の産業振興と伝統的技術の伝承を図るため、各種イベントでの鈴鹿墨の「にぎり墨体験」の実施、小学校の書道授業での「鈴鹿墨」の使用、各種メディアへの情報提供など、イベントやメディアを活用した鈴鹿墨のPRや教育現場と連携した普及活動に取り組んでいるグループです。

平成 25 年度には、「鈴鹿墨」をインク素材として利用し、プリントメーカー「NO NAME」、アパレルメーカー「Or Grory」等の企業とのネットワークを図ることで、鈴鹿墨でプリントされたTシャツの商品化を行い、地域の伝統工芸のアピールにつながりました。さらに、アパレルメーカーの春夏商品としての全国展開や「鈴鹿シティマラソン」の記念Tシャツ(1万枚)にも選定され、地場産業の振興につながっています。



○パートナーグループ「うな食うLOVE」(津市)

津のふるさとの味である「うなぎ」の味や、食文化としての「うなぎ」を広めるとともに、「うなぎ」を活用した商品開発、イベント販売などを通じて、地域活性化につなげているグループです。

平成 25 年度の「「プレ縁博みえ」民間企業とのタイアップ事業」の一つとして、地産地消でよりよいものを生産したい(株)野田米菓との連携により、「うなぎ」を使った新商品の「うなぎあられ」を開発し、さらに、(株)サークルKサンクスなどでの販路拡大につなげることで、津市の新たな名物として広まりつつあります。



○パートナーグループ「中郷農地活用委員会 柚子部会」(松阪市)

松阪市中郷まちづくり協議会の構成団体であり、耕作放棄地で柚子を栽培し、柚子の販売や加工品の企画・販売により、中郷を「柚子の里」として活性化することをめざすグループです。

平成25年度に、草刈機・動力付き運搬車等を購入[財政的支援]したことで、柚子栽培において大幅な省力化が可能となり、生産性の向上につながるとともに、地元産の食材を活かした加工品を開発・販売するパートナーグループ「食工房 中郷」との連携によりイベント出店・販売活動を拡大しています。

三重大学と辻製油(株)が連携した「柚子プロジェクト」への参画により、苗木の提供などの協力も得ながら、地域全体で「柚子の里」づくりに取り組んでいます。



○パートナーグループ「交流空間みやま」(紀北町)

集客拠点となっている熊野古道馬越峠に加えて、銚子川流域にごんべえ桜(河津桜)の名所をつくり、町内の他の地域資源と連携させることにより、銚子川流域の魅力を情報発信し、集客交流をめざしているグループです。

平成23年12月に、地域貢献活動とお楽しみを加えたソーシャルレジャープロジェクト「ごんべえ桜植樹&語り部と歩く熊野古道馬越峠ウォーキング」を実施するあたり、県との包括提携協定を締結しているイオンリテール(株)と連携し、イオン関係者や地元参加者等、県内外から約60名の参加を得て、

銚子川流域でごんべえ桜の植樹や語り部の案内による熊野古道馬越峠のウォーキングを行いました。その結果、翌年から公益財団法人イオン環境財団事業(3年間)による「紀北町植樹」の実施につながり、銚子川や熊野古道沿いの環境保全を促進することができました。



② 大学との連携により地域を元気にする

学生の社会性を育むことを目的として、カリキュラムに地域づくりを取り入れたり、地域と連携をした取組を行う大学が増えてきていることから、地域づくりへの若い世代の参画等を求めるパートナーグループと大学が連携することで、新たな人材育成や地域の活力の創出にもつながりました。

○三重大学との連携事例

平成 22 年に、三重大学主催の『ユネスコスクール研修会／シンポジウム』と連携し、三重大学三賢ホールで「美し国おこし・三重」活動報告・交流会を開催し、ユネスコスクール関係者による活動発表などを行いました。

また、共通教育ゼミ「ボランティア実践ゼミ」や共通教育ゼミ「広報誌編集実践」との連携などにより、「三重大学生コミュニティ誌「M I U」（平成 23 年 4 月発行）」で「美し国おこし・三重」特集ページを組み、学生がパートナーグループ 2 団体を現場取材するなど、学生と地域づくり団体の連携の機会を作りました。

カリキュラム「『美し国おこし・三重』実践」（平成 23 年 10 月～平成 24 年 2 月）と題した授業も行われ、「美し国おこし・三重」実行委員会では、学生の皆さんの地域づくり活動への参加・参画や、さまざまな主体による地域づくり活動への支援が進むよう、パートナーグループの皆さんのこの授業への出席などに協力をしました。さらに、学生の皆さんによる学習・研究・社会実践の成果を親しみやすく紹介する「三重大学アカデミックフェア 2012」では、この「『美し国おこし・三重』実践」の授業発表も行われました。

平成 22 年度に、パートナーグループ「熊野宮川を守る会」（熊野市）が地域の気候にあったカワラナデシコの花壇づくり[専門家派遣]を学び、熊野市・国土交通省・地元建設会社からの協力を得て花壇が完成した矢先に紀伊半島大水害（平成 23 年度）に見舞われました。それを受けて平成 24 年度に、三重大学のパートナーグループ「三重大学ユネスコクラブ」の学生の皆さんをはじめ、紀伊自動車学校や熊野市内のパートナーグループ「木本探検倶楽部」、「熊野元気塾」、地域のボランティアグループ「だんだんの会」の協力により、「美し国おこし・三重」のテーマプロジェクトの一つとして「熊野宮川の花壇の復旧」と「熊野古道松本峠のウォークや交流会」などを組み合わせた「ソーシャルレジャー」プロジェクトを展開することで、熊野宮川の災害復旧、景観整備につなげています。



三重大学では、持続的発展教育（ESD）を実践する学校としてユネスコスクールに加盟しており、パートナーグループ「三重大学ユネスコクラブ」は、平成 24 年度に世界遺産を ESD の観点から学ぶという主旨で、熊野古道ツアーの実施や、「ソーシャルレジャー」プロジェクトの一つとして、七里御浜海岸清掃にも取り組むなど、東紀州地域との広域的な連携につながっています。

○四日市大学との連携事例

平成 26 年度に、学生の皆さんの地域活動のきっかけづくりや人材の育成につなげるため、「美し国おこし・三重」四日市地域ご縁づくり交流会～輝く市民活動実践セミナー in 四日市大学～を、パートナーグループ「特定非営利活動法人 市民社会研究所」と共催し、四日市大学及び四日市看護

医療大学の学生の皆さんと四日市地域のパートナーグループの皆さんとが意見交換を行いました。

「美し国おこし・三重」パートナーグループによる地域づくり活動（市民活動）に対する思い・活動の紹介や主なリーダーとの膝詰の対話により、学生とグループとの連携につながっています。



○皇學館大学との連携事例

平成 23 年度に、車椅子レクダンスやフォークダンスを通して心の交流を深めるため、全国から約 800 人の参加者を迎え「めざそうバリフタウン第 14 回車椅子レクダンスふれあいフェスティバル全国大会 in 亀山」がパートナーグループ「車椅子レクダンス普及会亀山支部」（亀山市）によって開催されました。



三日目における、伊勢神宮での車椅子参加者の介助等のボランティアには、「美し国おこし・三重」サポーターズクラブの「皇學館大学ボランティアルーム」をはじめ、三重大学、皇學館高校、さらに住友電装(株)、河田フェザー(株)など地元の企業や各種団体の皆さんに協力いただくなどにより、無事終了することができました。これを機に、新たなボランティアグループが組織されるなど、地元の大学や高校、バリアフリースターセンターとの新たな連携も生まれています。



③ 行政等との連携により地域を元気にする

パートナーグループが福祉や観光など行政等の施策と連携してさまざまな取組を行うことで、行政サービスを補完するとともに、地域課題解決のきっかけづくりにもつながりました。また、地域づくりに取り組む市町の施策と「美し国おこし・三重」の取組が連携し、相乗効果を上げています。

○川越町など福祉政策での連携事例

平成 23 年度に、地域課題（若い世代や新住民との交流促進等）解決のために、川越町、川越町社会福祉協議会、地元のパートナーグループなどが議論を重ねて exchange イベント（不要衣服等の交換会）等の交流会を拡大座談会として実施したことにより、川越町における地域課題解決のきっかけづくりをすることができました。



川越町社会福祉協議会ではその後も住民を巻き込んだ^{えくすちえんじ}exchangeイベント等の交流会を地域住民とともに継続して開催し、若い世代や新住民との交流促進等を図っており、同様の地域課題を抱える近隣市町でも、同手法による交流会の開催等の動きが出てきました。



平成24年9月に県社会福祉協議会が主催した「第21回 全国ボランティアフェスティバルみえ」では、鈴鹿市の「NPO法人 愛伝舎^{あいでんしゃ}」、四日市市の「三重マサロネーズclub」、津市の「NPO法人 CORORO」、紀北町の「手づくり工房・ワイワイ」が活動事例発表を行うとともに、福祉関連のパートナーグループも多く参加し、県社会福祉協議会との連携・交流が広がっています。

○松阪市、名張市など観光振興での連携事例

松阪市では、市内全地域で設立されている住民協議会を中心とした地域づくりが進められ、住民協議会と「美し国おこし・三重」パートナーグループとのネットワーク化も積極的で、例えば、パートナーグループ「飯N^え!!」が宮前地区まちづくり協議会の「歴史街道宮前宿活性化事業」に参画・協力したり、パートナーグループ「ヴェルデラッソ松阪」が波瀬むらづくり協議会の「福島 松阪サマーキャンプ in波瀬」に協力するなどさまざまな形で連携による取組が広がっています。また、松阪市が住民協議会の支援を目的に実施している「地域の元気応援事業」では、平成26年度から市民活動サポート補助金（住民協議会との連携や支援を図る市民活動団体の事業を補助する）が新設され、今回採択された6事業のうち4事業がパートナーグループの事業となっており、市町の施策と「美し国おこし・三重」の事業が連携し、グループ育成など地域活性化において相乗効果を上げています。

（事業採択されたパートナーグループ及びプロジェクト名）

- ・「笑びすや農園」：笑顔あふれる農園“食育・農育”プロジェクト
- ・「まさかのまつさか」：地元大好き！魅力アップのキーワード
- ・「ミズ・ネットワーク松阪」：四方の桜をめぐるって願いをかなえよう!!
環境整備
- ・「喜心」：自家製味噌づくりで地域の和

さらに、松阪市と「美し国おこし・三重」実行委員会が、パートナーグループ等さまざまな団体との交流の場となる「松阪大縁会^{だいりんかい}」を共催する中で、地域づくり団体の交流・連携が促進されています。

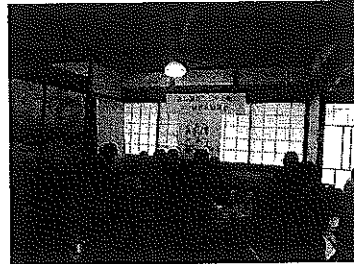


名張市では、パートナーグループ「大采^{おおく}皇女をしのぶ会^{ひめみこ}」（名張市）をはじめ、津市、伊賀市、名張市、宇陀市、御杖村、曾爾村の観光関係者等が参加する「東大和西三重地域広域プロジェクト実行委員会」（事務局：名張市）と「美し国おこし・三重」実行委員会が拡大座談会を共催し、講演会や歴史資源マッ

づくりワークショップなどにより、県境を跨いだガイドマップの作成や広域的観光キャンペーンの展開につなげています。

○県・市町と移住・交流促進での連携事例

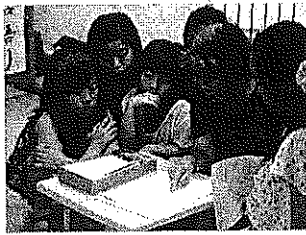
平成 25 年 2 月に、県南部地域活性化局やパートナーグループ「特定非営利活動法人 サルシカ」（津市）と共催で、「美し国おこし・三重」津地域拡大座談会「ええとこやんか、ええとこやもん！三重のイナカ暮らし、みんなで考える」を開催し、パートナーグループをはじめ、田舎暮らし実践者、受入れ実践者、グループ・団体の皆さんやその支援を行う県・市町の担当者などと現状と課題、今後の地域づくりの在り方について意見交換する機会を作りました。



これを契機として、「特定非営利活動法人 サルシカ」は、県南部地域活性化局や市町とも連携しながら「移住交流」の促進につながる取組を積極的に進める中で、県内の移住者や移住受け入れ団体とのネットワーク化を図る中間支援機能を担う活動を展開しつつあります。

また平成 26 年 6 月には、県土整備部景観まちづくり課と共催で、「世界遺産登録 10 周年に、熊野古道伊勢路を見つめなおす」をテーマに紀北町でご縁づくり交流会を開催し、パートナーグループの「NPO 法人 ふるさと企画舎」「交流空間みやま」「特定非営利活動法人 ア・ピース・オブ・コスモス」「古道魚まち歩観会」「海山熊野古道の会」（以上紀北町）「外遊び！ぷろじえくと」（尾鷲市）「膳」（大紀町）他関係者が多数出席し、「熊野古道伊勢路」の魅力の発信について意見交換しました。

みんなで動くと、
こんなにすごい。



「美し国おこし・三重」の取組は、こちらのホームページからもご覧いただけます。

<http://www.pref.mie.lg.jp/UMASHI/HP/>

「美し国おこし・三重」実行委員会

三重県地域連携部「美し国おこし・三重」推進プロジェクトチーム内

〒514-8570 三重県津市広明町 13 番地（三重県庁 2 階）

TEL : 059-224-2644 FAX : 059-224-2075